

令和元（２０１９）年度 第１回子ども・子育て会議 議事録

- 日 時 令和元（２０１９）年７月５日（金）１４：００～１６：００
- 会 場 元気館「きりん」プレールーム
- 出席委員 植木会長、品田副会長、蓮池委員、洲崎委員、佐野委員、松谷委員、村井委員、
西巻委員、宮下委員 ９人
- 欠席委員 難波委員、海津委員、北澤委員 ３人
- 事務局 前澤子ども未来部長
(子育て支援課) 品田課長、小池課長代理、小山係長、荒木係長、武田主事
(保育課) 小林課長、田辺課長代理、五十嵐係長
(ＩＴスクエア) ２名 １１人

１ 開会 司会：育成支援係長

２ 挨拶 子ども・子育て会議会長

大学の調査で年度末にスウェーデンへ行き、保育や学童保育の調査をしてきた。現場の先生方にヒアリングをすると、必ず「子どもの視点に立って保育をしています」と言う。大人の都合で保育をすると間違いが起こるため、常に子どもの視点で物事を考えるようにしている。したがって、スウェーデンでは体罰や虐待に起因する社会的問題はほとんどない。もう一つは、法律で禁止されており、効果がある。日本も来年４月に施行されるが、児童福祉法、児童虐待防止法が改正され、保護者の体罰が禁止されることになるが、どれだけ周知され、どのように子ども・子育て支援事業計画などに反映されれば、子どもの視点に立った計画になるか考えていきたい。

本日は、今年度の事業計画の報告があるが、忌憚のない意見をいただければ、第二期の計画に繋がっていくものと思う。本日は、よろしくお願いします。

３ 自己紹介 事務局及び委員

４ 議題 司会進行：会長

(１) 子ども・子育て支援事業計画（令和元（２０１９）年度実施見込み）について

総括表（令和元（２０１９）年度 事業実施状況及び評価一覧）より各担当者から説明

・総括表①、② 教育・保育給付

事務局：①施設型給付、幼稚園・認定こども園・保育園

②地域型保育給付、小規模保育・家庭的保育・居宅訪問型保育・事業所内保育
について説明

Ｂ委員 今日初めて参加する委員もいるので、総括表の見方、評価基準を簡単に説明していただきたい。

事務局 総括表の平成３０（２０１８）年度評価・実績欄は、昨年度子ども・子育て支援事業計画に基づき行った事業の実績が掲載してある。同欄の評価は、評価基準表に基づき達成率の割合のもとで評価をしている。令和元（２０１９）年度事業実施見込みは、子ども・子育て支援事業計画に掲載してある今年度の事業実施見込の計画を掲載している。

・総括表 1 地域子ども・子育て支援事業について

事務局 : 1 利用者支援事業
について説明

質問・意見等なし

・総括表 2 地域子ども・子育て支援事業について

事務局 : 2 地域子育て支援拠点事業について説明

質問・意見等なし

・総括表 3～6 地域子ども・子育て支援事業について

事務局 : 3 妊婦健康診査
4 乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）
5 養育支援訪問事業及び子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業
6 子育て短期支援事業
について説明

J 委員 児童虐待で児童相談所と連携という話があったが、柏崎市として保護をするような時は、どのような連携をしているのか。

事務局 アセスメント表を取ったり、写真を撮ったり、客観的な情報共有で動いている。相談や通告などによらず、現地確認を2人体制で実施し、受理会議を行い、以前の記録等を加味し要対協として全体を見た中での意見を付して、児童相談所に事実を伝えている。

J 委員 子ども達を守るという中で、個人のお宅に踏み込むのは難しいと思う。私が聞いた話の中で、保育園であざが多い子を発見し、保育園の先生が子どもにどうしたのか聞くが、虐待と判断できるわけではなく、通告した後それから具体的に責任をもって進んでいくのか疑問である。柏崎市として責任をもって踏み込んでいけるような案はあるのか。

事務局 現在は、全てがまとまっていることではないが、何よりも最優先で守るものが子どもの命である。学校の先生、保育園の先生にもお願いしている。現実的には保護者との関係やその後のことが優位に立ってはいけないので、私共もフォローできる体制を整えていけるようにしていきたい。

・総括表 7 地域子ども・子育て支援事業について

事務局 : 7 ファミリー・サポート・センター事業（子育て援助活動支援事業）
について説明

B 委員 提供会員の人数が昨年の実績が48、依頼会員が225とあり、ずいぶん開きがあるがこの数で足りているか。

事務局 今の段階で要望があったが、提供できる人がいなくて断ったことはないので、十分ではないが、何とか対応できている。

C委員 ファミサポは利用できる対象の年齢はどのようになっているのか。また、市内に周知をどのようにしているのか。

事務局 対象は産休明けから概ね小学生までを対象としている。周知に関しては、子育て便利帳、すくすくネットで発信している。また、助産師訪問の時にも声掛けをしたり、小学校長会でもチラシを配布している。

B委員 提供会員は有償ボランティアか。有償ボランティアとは何か。

事務局 県内どこの自治体もだいたい700円でやっている。無償ではなく活動の広がりも考え設定している。

・総括表 8～10 地域子ども・子育て支援事業について

事務局 : 8 一時預かり事業
9 延長保育事業
10 病児保育事業
について説明

B委員 今年度は病後児保育を行わず、病児保育のみであるが、ニーズが多い病児保育も柏崎総合医療センターに働きかけていくということか。

事務局 総合医療センターは病後児保育を続けている。ベースは病院職員向けであり、余裕があれば利用可能である。病後児保育がなくなったわけではないが、市の委託事業ではなくなったということである。

T委員 自由記述のまとめに病児保育について定員が少ないとあるが、新潟病院は定員4名、看護師や保育士の率が決まっているため、これ以上増やせない。季節的に利用者の波があるため、経費の面を考えると定員を増やすことは難しい。

かかりつけ医の診断が必要であり手間がかかり、利用しづらいとあるが、新潟市民病院は救急外来の先生が診察し書類を記載し病児保育へ預けるシステムを作ったようである。病児保育を利用したい書類を作成しても、翌日キャンセルになることも多々ある。そういうことを考えると、経営的に難しい面がある。

事務局 病児保育の内訳をみると、病院職員のお子さんが大半を占めており、難しい事業であると事務局も感じている。このようなことも含めて、総合医療センターと検討していきたいと考えている。

・総括表 11 地域子ども・子育て支援事業について

事務局 : 11 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）
放課後子ども教室
について説明

S委員 はまなす特別支援学校は児童クラブがなく、福祉課で担当している放課後等デイサービスを利用している人が多い。放課後等デイサービスは慢性的に空きがない状況であり、困っている人が多い。子育て支援課は事実の把握をしているかということと、それについてどのように考えて

いるか。

事務局 放課後等デイサービスの事業を福祉課で行っていることは把握しているが、対象児童がどれくらいいるか実態把握はしていない。児童クラブと放課後等デイサービスを併用している児童もいる。利用希望の児童クラブは校区で決められているわけではないので、送迎の問題は出てくると思うが、はまなす特別支援学校の児童も対象になるので、お声がけいただければ相談させていただきたい。

S 委員 児童クラブと放課後等デイサービスを併用しているのは人数の関係か。

事務局 曜日の関係で併用している。

S 委員 はまなすの児童か特別支援学級の児童か。

事務局 特別支援学級の児童である。

S 委員 放課後等デイサービス、児童クラブ、ファミサポ等、市役所で横の連携をしながら、安心して子どもを預けられる環境を作っていただきたい。

B 委員 放課後等デイサービスは、子ども・子育て支援事業計画の中に具体的な項目として取り入れていくようなことはあるのか。

事務局 国の指定する項目にはないため、現在は子ども・子育て支援事業計画の中には取り入れていないが、ニーズ調査のアンケートの中で多くの声があったり、子ども・子育て会議の委員さんから声があれば、考えていかなければならない。

B 委員 実態把握をし、可能な範囲で第二期の計画に載せていただく方向で調整していただければいいのではないか。

F 委員 放課後子ども教室は今年度高柳地区のみの実施であるが、他地区において工夫しながら子どもの居場所づくりを行っているため実態の把握に努めるとあるが、実態を把握し、今後市としての支援は何かあるのか。

事務局 来年度以降市として支援することは約束できない。

L 委員 児童クラブと放課後子ども教室の違いは。

事務局 児童クラブは厚生労働省管轄の事業であり、利用する条件として、日中保護者の就労等で留守家庭になる児童をお預かりする事業であり、使用料がかかる。対して、放課後子ども教室は、文部科学省管轄の事業であり、留守家庭等の条件はなく、児童は誰でも原則無料で参加できるものとなっているが、児童クラブのように毎日開催しているわけではない。

・総括表 12～13 地域子ども・子育て支援事業について

- 事務局 : 12 実費徴収に係る補足給付を行う事業について、
13 多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業

について説明

B 委員 今年の 10 月から幼児教育・保育の無償化が始まる。それに伴い副食費の実費が生じるが、年収 360 万円未満の世帯に関しては減免を予定していると思うが、世帯数は把握しているか。

事務局 本日は細かい資料を持ってきていないため、お答えできない。

全体を通した中で、

T 委員 自由記述のまとめの資料の中で、「7 病院について」とある。小児科クリニックが少ないとあるが、これからは小児科医になる医者は少ない。小児科医になろうとすると、親に反対されたり、周りの他科の先生から反対される。子どもは減っていくし仕事も減っていく。県内も、新潟、長岡、上越くらいの都市でしか開業しない現状である。

アレルギー専門外来はこれから増えてくると思う。もう少し経つと苦労しなくなると思う。

ADHD を診れる医者が少ない。30 年前くらいはこのような言葉もわからない時代であったが、今の時代、ADHD や自閉症は学校に 1 割くらいいと言われている。子どもだけの問題でなく、大人になってから引きこもりとか、事件を起こすこともある。専門の先生も少しずつは増えてきている。医者みんなが診れるわけではないので、学校の先生や心理の先生などと協力していかないといけない。

(2) 第二期柏崎市子ども・子育て支援事業計画骨子（案）について

事務局：第二期柏崎市子ども・子育て支援事業計画骨子（案）
について説明

J 委員 保育園の充足率を見るとばらつきがあると思う。ばらつきの理由は。

事務局 地元の保育園・幼稚園に通わせたいという保護者は多い。また、送迎する保護者の勤務先方面の保育園に通わせたい希望も多い。保育園の全体の定員は空きがあるが、年代によっては満員であったり等、これらの理由がかみ合わさって充足率のばらつきが生じていると思う。

J 委員 保育士の育成に対し支援はしているか。

事務局 保育士資格を取るため奨学金を出すというような自治体もある。柏崎市はまだそのようなことはしていないので、今後検討し充実していかなければとは思っている。

事務局 先ほど、給食費無償化該当を調べてきたので報告します。あくまで試算であるがおおよそ 480 人くらいが減免の対象になると思っている。また、第 3 子は減免対象になるため、収入に関係なく給食費が減免になるので、その数を含めての数である。

(3) その他
特になし

5 その他（連絡事項等）

事務局：報酬は 8 月 21 日、交通費と合わせて振込みとなるので、ご確認をお願いしたい。次回の会議については、7 月 31 日に予定しています。会議案内文書は後日送付させていただく

ので、日程確保をお願いしたい。

7 閉会 子ども未来部長

皆様お疲れさまでした。貴重な御意見ありがとうございました。次回の会議では、計画の骨子案についてご意見をいただき、御意見を活かしながら策定していきたいと思っている。計画策定までタイトなスケジュールになっているが、御協力をお願いします。今後もお世話になります。ありがとうございました。